

の山に方墳1基がある。ほかに破壊されたものもあった。

方墳は、一辺約10㍍、高さ約1.5㍍ほどのものである。墓の主は、当地方の有力者と推定されている。

名 称 「富穴前横穴古墳群」

所在地 駒ヶ嶺字富穴前

概 要 標高20㍍あまりの丘陵上に方墳（一辺約5㍍、高さ1.5㍍）が1基あり、丘陵の南斜面の中腹に横穴古墳8基が開口している。

このほかにも未確認のものがあり、古墳群をなしている。

町内には「磯山」「木崎」「熊野」（以上埴木崎）、「上ノ台」（谷地小屋）、「大戸浜古墳群」（大戸浜）、「藤崎古墳群」（駒ヶ嶺）、「鹿野古墳群」（今泉）などがあり、いずれも7世紀後半のものと推定されている。

製鉄遺跡

名 称 「北原製鉄遺跡」

所在地 福田字北原

概 要 海岸から約3㍍あまりの丘陵地帯にある。

大量の鉄滓が堆積しており、羽口も多く発見されている。

製鉄炉は、鉄滓捨場の上辺にあると推定されるが、現状では確認できない。

出土の羽口は小型で薄手のものもあり、また鉄滓の量などから遺跡は古代の第一次の製鉄遺跡と推定されている。

町内には、製鉄遺跡が多数あることが判明している。相馬地域開発計画に伴って発掘された武井地区の製鉄遺跡は、東日本最大と称されたほどの規模であり、そのほか町内各地の丘陵地帯の主なる所に製鉄遺跡がある。